



- 日時：平成29年9月10日(日) ●会場：大阪府鍼灸師会館3階
- 講師：日本鍼灸研究会代表 篠原孝市先生

★医道の日本誌9月号888号発刊記念特集 88人による「ツボのとらえ方」について

全体を読むと、大事なことが提起されているなと思う。ツボを浅く取るという人が一定数いる。しかし、中には、ツボというのは立体的なもので、深い部分というのが関係しているのだという人もいる。その言い方の中には、いわゆる深い部分を押したり鍼をしたりして、深い部分というのがツボの何かであり、ツボの深さが関係するのだということがある。そうすると、ツボというのは深さがどの程度関係するのかという問題が、必ず出てくる。表面を触って、表面で終わるといような、私どもがやっている井上系経絡治療もそうであるが、しかし「深いところを見なければいけないんだ」という意味の内容を書いている人が結構いる。

ツボの深さの問題というのは、もう一度考えてみる必要がある。

— \* — \* — \* — \* —

★至眞要大論篇第七十四注 第五十一章

帝曰く、其の脈應（みやくおう）皆な何如（いかん）、と。

帝が尋ねられる。脈状は春夏秋冬でどのように、対応するのか。

岐伯曰く、差、正法（せいほう）に同じ。

時を待ちて去るなり。

脈要に曰く、春は沈ならず、夏は弦ならず、冬は濡（じょく）ならず、秋は數（さく）ならざる、是れを四塞（しそく）と謂う。

沈甚だしきを病（びょう）と曰う（いう）。

弦甚だしきを病と曰う。

濡（じょく）甚だしきを病と曰う。

數（さく）甚だしきを病と曰う。

參え（まじえ）見るる（あらわるる）を病と曰う。

復た（また）見るる（あらわるる）を病と曰う。

未だ去らずして去るを病と曰う。

去りて去らざるを病と曰う。

反する者は死す。

故に曰く、氣の相守り（あい、まもり）司る（つかさどる）こと、權衡（けんこう）の相失する（あい、しつする）ことを得ざるが如し。

夫れ（それ）陰陽の氣（き）、清靜（せいじょう）なれば則ち生化（せいか）治まり、動ずれば則ち苛疾（かしつ）起こる、此（これ）を謂うなり（いうなり）、と。

（訳文）

岐伯が答えた。「それぞれの違いというのは、正しい脈のありかたと同じものであって、それぞれの時というのが来ると、次々に脈状が変わっていく。『脈要』がいうところによると、（\*1 春は沈ならず、夏は弦ならず、冬は濡ならず、秋は數ならず）これを四塞という」

( \* 1 の解説 )

原文は「春不沈。夏不弦。冬不濡。秋不數。是謂四塞」である。文中の「不」の字は、置き字にすぎなくて、これを否定の意味に訳するのはよくないといわれている。私も、訳文はそのまま読んで訓読しているが、この「何々ならず」というのは本当は良くない。「春は沈。夏は弦。冬は濡。秋は數。これを四塞という」という風にしないと、四塞の意味と合わないと思う。

( 訳文 )

沈も弦も濡、數もはなはだしいものは病気だ。

複数の気が一緒になって、来るものを病という。

もうすでに季節が変わって、おとろえてしまった、あるいは、もう全く季節が変わってしまって、あるべからざるような状態、その気がもう一度見えてくるようなものを病気という。( \* 例えば、冬に夏の脈が出るようなものを指している )

まだ季節が終わっていないのに、脈が変わってしまうのは病気である。

季節が変わったのに、脈が変わっていない状態は病気である。

こういう原理原則に、違う ( たがう ) ものは、予後不良である。

気の守りというのは天秤ばかりのバランスと同じである。

陰陽の気というものが春夏秋冬の季節をつかさどり、からだをつかさどっている。それはひじょうに静かで安定した状態であれば、生・長・化・収・蔵の気の収まった状態になる。

しかし正常ではなく、動ずれば非常に激しい病が起こる。

これをいうのである。

( \* 解説 2 )

『素問』四氣調神大論篇第二に「陰陽の四時は、萬物の終始なり。死生の本なり。これに逆らえばすなわち災害を生ず。これに従えば、すなわち苛疾起こらず。これを道を得たりという」とあり、そこから、おそらく作った文章であろう。

( \* 解説 3 )

人間というのは自然の枠組みからはみ出た存在である。はみ出た存在であるにも関わらず、この原理原則に縛られている。しかし、そこからはみ出してしまふような存在で、おそらく中国医学のこういうものは、自然に沿って生きようとする人達の原理となるようなもの、おそらくそういう風には書かれてないのであろう。

( \* 次回予告 )

来月はいよいよ至眞要大論篇の一番有名な、後代に圧倒的な影響を与えた病機十九条の部分の解説に入っ  
て行きたいと思う。これはかなりくわしくやりたいと思っている。

- \* - \* - \* - \* -

**\* 『素問』の森を歩いてみませんか。毎月休まず第二日曜です。いつでも、みなさまのご参加をお待ちしています。**

( 素問勉強会世話人 東大阪地域 松本政己 )